

第2回奈良市の地域教育を考える委員会会議録

平成26年12月15日 会議

地域教育課

平成26年度 第2回 奈良市の地域教育を考える委員会 会議録	
開催日時	平成26年12月15日(月) 15時00分～16時30分
開催場所	奈良市庁舎 第21会議室
内容	<p>○ 開 会</p> <p>○ 議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度「地域連携についての実態調査」の結果について ・奈良市コーディネーター勉強会の取組内容について ・平成26年度地域教育推進事業に関するアンケートについて ・その他 <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	<p>岡田龍樹会長 佐野万里子副会長 梅林聰介委員 岡田和大委員 長浜博己委員 岡田修委員 松本知子委員 上城戸栄子委員 上田和男委員 若江真紀委員 (欠席 魚谷和良委員)</p> <p>(担当部局) 梅田学校教育部長 西崎教育総務部長 寺田子ども未来部長 (欠席 北谷教育委員会事務局理事)</p> <p>(事務局) 松田地域教育課長(事務局長) 岡崎こども園推進課長 廣岡教育支援課長 一井教育政策課長補佐(石原課長代理) 丸本学校教育課指導主事(城課長代理) 他 地域教育課から6名</p>
開催形態	公開
担当課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会（司会市川係長）

○ 議事

岡田会長 本委員会は、運営要領により公開とさせていただきます。また、会議録を作成するため、録音と写真撮影を行いますことをご了承ください。本日の会議録の署名は、長浜委員と上城戸委員にお願いします。本日の会議の傍聴希望はございましたか。

事務局 傍聴希望はございませんでした。

岡田会長 では、議事に入らせていただきます。案件1の「平成26年度「地域連携についての実態調査」の結果について」、案件2の「奈良市コーディネーター勉強会の取組内容について」の説明を事務局よりお願いします。

事務局 （配付資料とパワーポイントを使って2案件を事務局説明。）

以上2案件についてご報告をさせていただきました。ご意見ご感想を、よろしく願います。

岡田会長 ありがとうございます。まず、「地域連携についての実態調査」についてですが、校園の管理職へのアンケート調査の結果の報告に関して、ご質問ございますでしょうか。

資料の②です。校園長先生方何か補足ございますか。平成25年の4月に、考える委員会の方から、取組を進めていってほしいということで5点課題としてあげられているのですが、それがどの程度達成されつつあるかということ、学校園にアンケートしていただいたものです。学校としていかがですか。

長浜委員 予想通りといえば予想通りです。問4の主幹教諭が4パーセントというのは、書くには及ばない。主幹教諭はそこにしか配当されていないのですから。あとは、10パーセントずつアップしているというのは、学校現場やコーディネーターに働きかけた結果ということで、成果としてみたらいいのではないかと思う。

岡田会長 主幹教諭の配置率というのはどの程度ですか。

長浜委員 ほんの数校です。

岡田会長 地域連携担当の先生方が配置されている割合が増えつつあるということです。

岡田修委員 コミュニティールームのあるなしに関する考察の部分で、「必要性を感じていない」とあるのですが、そこに問題があると思うのですが。必要性を感じていないという理由がどのあたりにあるのか逆に尋ねてみたい。今現状としては余裕教室のない学校はごく限られた西部地域の数校だけで、だいたい余裕教室はある。そういった部屋を広く自由にオープンに使えるという意味で、わざわざ名前をつける必要はないという意味なのか？本当に文字通り必要がないと思っておられるのか、その点が知りたい。部屋があるということは、そこに物を置けるということで、そのことはとても活動にとっては大切なことで、本校の活動を見ても、活動に使うものはもろもろあるので、物が置ける場所があるにこしたことはない。そのあたりはどうか。

事務局 ありがとうございます。文章力の不足です。まったくいないという意味ではなく、部屋を作らなくても十分という意味で、会議室や園長室とかの部屋で十分事足りている

ので、あえて名前を付けて部屋を作る必要はないという意味だと思います。

岡田修委員 ということになれば、その後段の「地域の方々が足を運びやすい学校になっているかどうかの指針ともいえる。」という文章と矛盾するのではないかと。

岡田会長 今おっしゃっていただいたように、物が置けるということで、一つ部屋があると便利であろうということはあるが、ただ、校外から来られる方をその部屋に押し込めて、そこへだけ行っておけばいいとなれば、先生たちとの接触は少なくなるわけで、コミュニティールームがあるということは一つの指標にはなるが、それとは別に、校内に来ていただける地域の方と教員がうまく連携しているかどうか、ということとは別途考察する必要がある。コミュニティールームがないからといって、地域の方が足を運んでいない、とも言えない。

若江委員 私もすごくここが引っ掛かった。全国的に見て地域との関係がうまくいっているところは、こういう部屋がきちっとある。それはなぜかというと、職員室にコーディネーターが入れてもらえるということだけでも、地域側からは受け入れてもらっている感がある。職員室では細かな打ち合わせはできないので、別に部屋がある方がいい。先生とコーディネーターの接点だけではなく、コーディネーターがコーディネートする多様なボランティアの人たちがそこに来ることによって、壁面にある年間計画とか、先生方からの要望箱とか、いろんなものに接することができる。また、先生方もそこに来ることによって、コーディネーターの動きを知ったり、要望を伝えたりもできる。そのスペースがコミュニケーションのカギになっている。職員室でとか園長室でというのは限られた人のコミュニケーションになってしまい、もっと地域に開いてつないでいくためには、この部屋がすごく重要な役割を果たしている、ということがあまり伝わっていないのか、という不安を感じた。地域連携教員を配置ができないという実情を考えても、場所が人に代わる役割を果たすというふうに考える必要がある。地域連携教員がいるとしてもその連携教員にだけ負担がかかるというのもおかしな話だ。コーディネーターも複数いたりして多様な方が関わっているので、オープンに情報をコミュニケーションできるということが必要だと思う。

岡田会長 コミュニティールームは、余裕教室がないわけではないので、積極的に設置していただいて、使う側も、活動したり計画したりする場であって、限られた人だけのお茶飲み場ではなく、もっとオープンであって、教員にもそこに来てもらってというような姿勢で運営されていく必要がある。そのあたりもう少し理解を深めていく必要もある。

松本委員 コミュニティールームは、幼稚園では職員数が少なく地域担当も園長か主任になり、来られたら対応するというのが実情なので、実質は園長室を使うことが多い。地域の方が来て自由に使うということにはなっていない。部屋もぎりぎりいっぱいPTAの部屋も取れていないので、そういった部屋の設置は難しい。また、特別あいている職員もいないので、園長、主任が対応し、随時来ていただきやすいよう案内している。問9の広報の実施が幼稚園は少ないのだが、どうして少ないのか疑問に思っている。いろんな案内は地域教育協議会を通してしているし、公民館などとも連携して行っているのだが、よそではやっていないのかなと、気になる。

岡田会長 学校の教職員の理解が少ないということが、当初から繰り返し言われているのだが、

奈良市もある程度時間をかけてこの事業を進めてきて、一般教職員へもこの事業が浸透してきているという感覚はあるか。

長浜委員 私のところは、校務分掌の中で地域教育協議会の担当も決まっているし、全職員の地区担当も決まっている。一昨日でももちつきがあったが、私は自分が退職だから一切そんなことはやらないのだが、誰に代わってもできるようにしておかねばということで、担当がいるので、地区担当のリーダーが地域と連携して職員が動ける体制になっている。浸透しているというよりは、地域と一緒にやっている。CSルームはあるが、会議の多くは校長室で実施し、職員室にも会議の様子が伝わるようにしている。部屋もいくつ確保し、少人数でやる時はこの部屋、多い時はここというふうに、かなり浸透している。

岡田会長 職員の理解はかなり進んでいるのでしょうか。

長浜委員 そうですね。校区の小学校を見ても、かなり認知度は高いですね。

岡田会長 そのあたりPTAの立場から学校に行かれてどうですか。

岡田和委員 自分の学校の話でいいますと、この何年間で先生方の理解は進んでいると思う。三笠中学校区の中で地域教育協議会が活発に動いているのもあるし、昨年度も学校の先生と地域の方が懇談する場を夏にもたしてもらい、12月には小学校区単位で小学校の地域の方と先生が懇談する機会も持った。先生方の中でも積極的に参加していこうという動きも出てきているという話も聞いている。PTAの立場で言うと、先生と地域が動いていっているのに、PTAの部分が動けない。PTAの役員だけが把握していたり動いていたりするのだが、全体的には、地域教育協議会が何かわからない。地域と学校と一緒にやっていくことについて考える場がない。親だけが取り残されている感がある。どちらかというとならぬPTAの責任ということがあるが、一番遅れているのがPTAだと思う。

梅林委員 たまたま私も三笠中学校区なのですが、最近、教員が地域に協力して地域に出てきていただく機会がすごく増えている。そういう意味では変わってきた。運営協議会を通じて地域と教職員が話し合う頻度が増えてきて、地域への接し方も変わってきている。そういうことを通じて、学校の悩みや地域の悩み等が、共通の話題となって、話し合いながら解決していくことにつながればいいなと考えている。三笠中学校区だけなのかもしれないが、いろんな行事に積極的に参加していただけるようになっているのはありがたいし、いいことだなと思っている。

岡田会長 地域の方も一生懸命活動していただき、それに刺激される形で学校も活動していくという形になっているが、地域の方々から、PTAや保護者の方々へのアプローチに関して何かご意見ございますか。保護者との関わりに関してということはどうですか。

上田委員 私たちのところでは十何年前からこういった組織が立ち上がってしまして、地域教育協議会には、各校園長もPTA会長も出席していただいております。その内容をPTAにも報告してもらっています。また自治連合会長も出席していただき、会長が2年交代で協議会の会長にもなっている。質問なのですが、コミュニティールームの鍵は預かっているのか。

岡田会長 コミュニティールームの管理はどうなっているのでしょうか。

上城戸委員 職員室の机から自由に持っていきけるのだが、土日の活動の時には、信用してもらい、持ちかえらせていただいている。教室と学校の鍵両方セットでお借りしている。そういった意味では、コミュニティールームというのは助かります。

上田委員 私たちは、校長室や会議室、人数が多い場合はPTAの会議室や図書室を使っている。コーディネーター勉強会にも誘われたのだが、どういった内容でやっておられるのか。内容を聞いて一回ぐらいは参加させてもらおうかと思っている。

岡田会長 地域と学校の連携がこの会のテーマではございますが、学校教育の課題の中には、保護者の問題というのが常にあるのですが、その課題にこの事業から何とかアプローチして、多くの保護者に子育てに関わっていただくというような意識が広がっていくことができたと思います。保護者との関係で学校の問題というのが出てくることが多い。PTAということに限ると、なかなか役員のなり手がなく、という課題もある。この会でも以前、PTAとの事業の連携が話題に上がり、PTAは忙しいという議論もあり、PTAを何とか支援しながら、一緒に活動できるようなことに取り組みたいというように話がされた。

岡田和委員 保護者は地域の一員でもあるし、PTAでもあるが、そのどちらにも参加しない。学校は子どもが学校に通っているので、学校の取り組みを知ってほしいのだが、来てくれないので理解が進まないという実態がある。どうしたらいいのか。

岡田会長 PTAのご苦勞はあちこちで聞く。世代的に小学生中学生を子どもに持つ親世代が忙しいということはあるが、家庭教育の責任ですよと詰め寄るのではなく、地域で支えますからという形で、保護者の方にも教育に意識を向けてもらえるような方向へ、この事業が向かっていくのが望ましい。

梅林委員 保護者にはっきりものを言えるのは地域しかいない。そのあたりを地域との連携も含め考えていかないといけない。具体的に言うと、私どもの地域では夏にパトロールを実施しているが、二十年前だと何かあればそのクラスの保護者が決められた時間二十数人でパトロールをするというのが当たり前だったが、最近は、どういうことを言うかという、「会長。パトロールはいいですけど、私ら子どもをほおっておいてはかえって危険ですので、私らはいけません。」という言葉が返ってくる。「だけどもあなたたちの子どもだよ。地域は協力するけど、どうしたら自分たちの子どもを自分たちで守れるか、まず自分らで考えたらどう。」と問いかけると、答えは返ってこない。代替案として、子どもたちを集めて何人かで見守り、その間に20人ほどでパトロールするとか、片親の世帯もあるだろうが、母親が子どもを見ている間に父親を集めてパトロールするとか、自分たちで考えたらどうだ。と言うのだが、こんなことを言えるのは、地域の人間だからだ。地域と学校が連携して真剣に考えていく必要がある。学校教育も含めて崩壊してしまうような所まで来るのではないかと危惧している。保護者にはっきりものを言える地域の力が必要になってくる。

岡田会長 こうしたらどうというアイデア・工夫を提案しながら連携していく。

梅林委員 今の保護者は考えないのかと思う。どうしたらできるんやろ、何とかしてできないか、と考えることが、ノーベル賞もたくさんもらえるような日本人を作ってきたのではないか。今の保護者は、「私らの子どもは地域の方々に守ってもらって」と言うが、「ちよっ

と待って。地域は協力はするが、あなたたちの子どもですよ。責任を持って子どもを守るのはあなたたちですよ。」と、言わなければならない時代になってきている。

岡田会長

仲良く言いたいことを言い合えるような雰囲気です。やっていただけたらと思います。続いて、コーディネーター勉強会ですが、これは去年立ち上がって動き始めています。奈良市のこの事業では、特にコーディネーターが熱心で、リーダー格の方々も増えてきたので、そういう方々を中心に22校区の実態を勉強しながら、情報交換しつつ支援・援助し合えたらいい、そういうことを通じて、自分たちの力量も高めていこうということで勉強会が始まっています。先ほど説明がありましたが、奈良市はコーディネーターの数が非常に多いというのが特徴です。全国的にこの事業を見てみると、たいがいコーディネーターは学校に1人か2人だ。奈良市では全体のコーディネーターが四百数十名いらっしゃいます。それで、コーディネーター研修会という時に、地域で決める学校予算のコーディネーターと、放課後子ども教室のコーディネーターでは話が合わない、ということを実感しておられる。そういうことが勉強会で話題になった時に、それぞれの協議会で組織としてどうなっているのかを精査していきましょう、と始めてのがこのシートです。毎年5月連休明けに提出される協議会・運営委員会の名簿をもとに、個々のコーディネーターの関わり・所属を一覧表にして動き方を確認していこうということです。これがなかなかバラエティーに富んでいて、校区によって違っています。学校支援地域本部事業の始まる前、夢教育プランの時から行っていた放課後事業・土曜日の子ども居場所づくり事業から続いている方々が放課後子ども教室のコーディネーターになっている場合もありますし、それぞれの協議会で、二つの事業を一つの傘の下におさめるときに、特徴・違いがあります。一律に奈良市を一つの型に当てはめるのは難しく、それぞれの校区の特徴を理解したうえで、やり方を見ていく必要がある、ということが分かってきた。奈良市は非常に多様です。校区の分析をするときには、ゲストとしてコーディネーターをお招きしてお話をお伺いしたいと思いますので、お声がかかることもあるかもしれませんがよろしくお願ひいたします。

上田委員

こういったことを調べておられるのですね。

岡田会長

今それを中心にやっています。そうすると、コーディネーターはそれぞれ自分の経験をもとに意見を述べられるのですが、それぞれの組織的な違いを知ることで、経験だけでなくもう少し広い視野で見て、自分の校区の特徴もとらえて動いていく必要があるという自覚も出てくる。なかなか面白い取組だと思ふ。全校区調べたら整理してまとめますので、乞うご期待ください。よろしいでしょうか。では続いて3つ目の案件「平成26年度地域教育推進事業に関するアンケートについて」です。事務局説明をお願いします。

事務局

(配付資料とパワーポイントを使って案件3を事務局説明。)

以上案件3について提案をさせていただきました。ご審議よろしくお願ひいたします。

岡田会長

ありがとうございます。毎年実施しデータをとっているが、学校園・コーディネーターなどいろんな方にアンケートし、質問項目も非常に細かなものなので、もっと聞きたいことを精査して、もう少しコンパクトにしましょうという提案です。コンパクトにすると漏れ落ちるものも出るわけですので、ざっと見ていただいて、これはこういう意図で聞いていたので残しておいた方がいいのでは、ということも含めて、質問の中身につ

いてご意見をいただきたい。一応経年比較もしていかなければならないので、それはある程度できるようにと考えられている。よろしいでしょうか。この2月ぐらいに実施します。

上田委員 項目が減っただけで大きな内容は変わってないですね。

岡田会長 項目を取捨選択したということですね。

事務局 環境整備なら環境整備で、二つを一つにまとめたものはありますが、大きな変更点はありません。

長浜委員 いわゆるスリム化したということで、経年比較もできるし、回答者の比較も従来通りできる設問になっているのでこれでいいと思う。ただ、いつ集約結果とか考察が出るのですか。

事務局 次回の第3回で中間報告としては示したいのだが、次の年度の第1回できちんと報告させてもらう。

長浜委員 実施する時には、結果や考察をいつにやると明記しておいてほしい。

岡田会長 答えた方は、いつフィードバックされるのか気になります。年度内にできれば一番いいのだが、なかなかそれは難しいと思う。

若江委員 会長用の1ページの「効果があった」というのに対して、10の「保護者や地域からの学校に対する苦情が減った」、これを効果ということにして報告として開示する時に、保護者に対していいイメージはないわけですから、削除された「学校に対する理解が深まった」とか「学校に協力的になった」というポジティブな表現にしておかれた方がいいなと思いました。13、14の「地域や家庭の教育力が向上した」「地域の活性化につながった」という抽象的な表現だと、アンケートをとるということは次への改善とか次の糸口につながっていくものなので、14であれば、削除された「地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった」とか「地域住民のつながりが生まれた」という具体的な表現の方が後々いいのではないかと。精査していけばいっただけ大雑把なくくりになってしまって、それがメッセージ性を持つかといえばあまり持たないものになってしまうのではないかと、ということを感じました。集約するのはいいのですが、その表現をもう少し考えた方がいいのではと思いました。

岡田会長 今のようなご意見を伺いながらまた修正は加えられますね。

事務局 具体的なものにとということですね。

岡田会長 この事業に関わっているそれぞれの方々が、やったらいいということは漠然とわかっているのだが、どこにどのように効果が表れてきているのか具体的に明瞭に知りたい、という気持ちをみなさん持っておられる。できるだけそれが明瞭にわかるような文言であればいいという気がします。スリムにしようというのは、ちょうど2月ごろにはいろいろなアンケートも多いので、回答者の労力を少なくしようということもあったのだが、必要なデータにしていきたい。実は、県の方でも同じようなアンケートを実施しようとしている。それも奈良市に回ってくるかどうかはご相談の上ということになるのだが、アンケートづけになる、というようなところも危惧される。

上田委員 市は前からやっていますね。県の方にどの程度協力すべきなのか。そのあたりはどうか。

岡田会長 県の事業は奈良市を除いた市町村の事業を所管している。ただ、アンケートなどのデータ量としては奈良市が圧倒的に多いので、県としては奈良市のデータがほしいということはある。ただ、データ量が大きいので、奈良市を含めて奈良市以外と比較するというのはすごく意味が違ってくるので、簡単に一緒にしたらいいと単純には言えない。奈良市として突っばねるという意見もあるかもしれませんが、どういうアンケートなのかを見て奈良市としても利用できるというのであれば利用すればいいと思う。実は私は県のその仕事をしていて、奈良市をどうしようかと話をしているところなのですが、県も具体的な効果を知りたい。この事業をやればこんな効果があったという評価基準を作りたい。そうしていかないと、県としてはこの事業を推し進めていく予算がつかないということもあり、きちっと成果が表れるところを見つけたいという意図もある。

上田委員 予算獲得のためのアンケートならできるだけいい答えを書くと、予算をくれるということになる。逆に正直に答えれば予算がつかないということにもなる。そのあたりは難しいですね。この答にすればこうなると予想できるようなアンケートではどうか。

岡田会長 予算のことは別にして、きちんとした評価ができるようなしくみを考えていきたい。この数字を上げていけば、この事業が良くなっていくのだ、ということがリンクしていると目標もできる。奈良市のアンケートはもう少し精査していただいて実施に向けたい。それぞれお持ち帰りいただいて、意見をお寄せいただきたい。以上で予定していた3つの案件を終わります。ありがとうございました。ではその他について事務局お願いします。

事務局 ①「平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰」において登美ヶ丘中学校区地域教育協議会が受賞したことについて
②第4回交流の集いについて
③第3回の日程調整について

岡田会長 それではこれで本日の会議を終了いたします。

○ 閉会

- ※ 資料
- ① 奈良市地域教育推進事業へ発展的な取組に向けて
 - ② 平成26年度 「地域連携についての実態調査」結果報告書
 - ③ 奈良市地域教育推進事業 分析シート（奈良市コーディネーター勉強会）
 - ④ 平成26年度 奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査について
 - ⑤ アンケート調査用紙
(会長用、総合・代表コーディネーター用、管理職用、地域連携担当教員用)

平成 年 月 日

署名委員

署名委員
